

素晴らしい「地球」と快適な「環境づくり」

# エコアクション21 環境経営レポート

【第14版】

対象期間：令和6年4月1日～令和7年3月31日



2025年7月7日 発行



OKINAWA KEISOKU

株式会社 沖縄計測

# 目次とタイトル



目次		タイトル	ページ
■ 計画の策定 (Plan)			
No.1	会社概要	会社概要	2
No.2	会社沿革	会社沿革～当社49年のあゆみ～	3.4.5
No.3	SDGsの取り組み	SDGsの取組	6.7
No.4	事業内容	土木調査事業部／ものづくり「磁気探査機器開発への取組」	8.9.10
		リサイクル事業部／ものづくり「高度化リサイクル及び作業環境改善への取組（実績）」	11.12
No.5	環境経営方針	環境経営方針	13
No.6	経営における課題とチャンス	令和6年度 経営における課題とチャンス（環境への配慮）	14
■ 令和6年度 取り組み目標と結果 (Check)			
No.7	環境経営目標・環境経営計画の策定	環境経営目標・環境経営計画の策定（土木調査事業部・リサイクル事業部）	15.16.17.18
No.8	二酸化炭素排出量の削減	取り組み結果と評価（土木調査事業部・リサイクル事業部）	19.20
No.9	水使用量の削減	取り組み結果と評価（土木調査事業部・リサイクル事業部）	21.22
No.10	産業廃棄物の削減	取り組み結果と評価（土木調査事業部・リサイクル事業部）	23.24
No.11	一般廃棄物の削減	取り組み結果と評価（土木調査事業部・リサイクル事業部）	25.26
No.12	グリーン購入の促進	取り組み結果と評価（土木調査事業部・リサイクル事業部）	27
■ 計画の実施 (Do)			
No.13	実施体制	実施体制	28
No.14	環境コミュニケーション	令和6年度 環境コミュニケーション（OJT/OFF-JT）	29.30.31.32
No.15	活動報告	活動報告（土木調査事業部・リサイクル事業部）	32.33.34.35.36.37.38
■ 次年度（令和7年度） 経営における課題とチャンス (Check)			
No.16	経営における課題とチャンス	令和7年度 経営における課題とチャンス（環境への配慮）	39
No.17	環境経営目標及び環境経営計画	令和7年度 環境経営目標及び環境経営計画（土木調査事業部・リサイクル事業部）	40.41
No.18	中期目標	中期目標（CO <sub>2</sub> 排出量・水使用量・産業廃棄物・一般廃棄物）	42
No.19	具体的計画	具体的計画（CO <sub>2</sub> 排出量・水使用量・産業廃棄物・一般廃棄物・グリーン購入）	43.44
No.20	環境関連法規及び遵守状況	環境関連法規及び遵守状況	45
■ 全体の評価と見直し (Action)			
No.21	代表者による全体評価と見直し	代表者による全体評価と見直し	46

# 会社概要

## ● 事業内容（土木調査事業部・リサイクル事業部）

名称 株式会社 沖 縄 計 測  
 設立 昭和51年6月7日  
 資本金 4,500万円  
 代表者 代表取締役社長 玉城 幸人

## ● 所在地 本社/土木調査事業部 沖縄県沖縄市泡瀬1丁目39番26号 TEL (098) 937-6060 FAX (098) 982-1076

リサイクル事業部 沖縄県うるま市字州崎7番地21  
 TEL (098) 929-3394 FAX (098) 929-3360

## ● 担当者連絡先

環境管理責任者	西田 光恵	TEL (098) 937-6060
事務局	土木調査事業部担当 リサイクル事業部担当	金城 豊 安里 孝彰
		TEL (098) 937-6060 TEL (098) 929-3394

## ● 営業種目

### 1. 土木調査事業部

- (1) 磁気探査・測量設計・地質調査  
 環境調査・深淺測量・開発許可申請 登録：測量業 第(7)-21521号
- (2) 各種磁気探査機器の設計・製作・販売

### 2. リサイクル事業部

- (1) 廃プラスチックの再生処理  
 処理施設の種類：粉碎施設  
 処理する再生原料の種類：ペットボトル・廃プラスチック類  
 処理能力：21.0 t/日 (1 t/時間)
- (2) 廃プラスチック類の処理加工、販売  
 許可：公益財団法人日本容器包装リサイクル協会 登録事業者  
 再生処理実績：3,117 t (令和6年度)
- (3) 産業廃棄物中間処理

- 一般廃棄物処理施設変更許可(中間処理) 沖縄県環境第648-4号  
 許可年月日：令和3年1月12日 一般廃棄物の種類：廃プラスチック類  
 (平成12年12月18日許可の一般廃棄物処理施設設置許可を  
 『産業廃棄物処理施設の設置者に係る一般廃棄物処理施設の設置に係る特例届出』へ変更)



- 産業廃棄物処分業許可(中間処理) 沖縄県04722076518号  
 許可年月日：令和 6年 3月 18日  
 有効年月日：令和11年 3月 17日  
 事業の範囲（破碎）：廃プラスチック類  
 中間処理実績：5.07 t (令和6年度)

- 産業廃棄物収集運搬業許可 沖縄県第04702076518号  
 許可年月日：令和 3年 9月 15日  
 有効年月日：令和 8年 9月 14日  
 事業の範囲：汚泥・廃油・廃酸・廃アルカリ・廃プラスチック類・紙くず・木くず・繊維くず・ゴムくず・金属くず・ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず・がれき類  
 (これらのうち石綿含有産業廃棄物であるもの及び特別管理産業廃棄物であるものを除く。積替え保管を含まない)  
 収集運搬実績：13.37 t  
 収集運搬車両：4tトラック2台、4t 塵芥車1台

- 一般廃棄物処分業許可(うるま市) 許可番号 第4号  
 許可年月日：令和 5年 4月 1日  
 有効年月日：令和 7年 3月 31日  
 一般廃棄物の種類：ペットボトル、廃プラスチック類

- 一般廃棄物収集運搬業許可(うるま市) 許可番号 第5号  
 許可年月日：令和 5年 4月 1日  
 有効年月日：令和 7年 3月 31日  
 一般廃棄物の種類：ペットボトル、廃プラスチック類

社員数 48名 (令和6年度：土木調査事業部 31名、リサイクル事業部 17名)  
 売上高 10億4千万円 (令和6年度) R7年 3月期末

- 対象範囲 認証・登録番号 (0007693)

### 【全組織・全活動】

土木調査事業部（沖縄県沖縄市泡瀬1丁目39番26号）、  
 リサイクル事業部（沖縄県うるま市字州崎7番地21号）にある株式会社沖縄計測が所有する土地、  
 建造物、設備、全従業員が対象組織であり、組織の全ての活動をもって、EcoAction21に取り組み、  
 環境経営システムを構築、運用、維持します。

# 会社沿革～当社49年のあゆみ

元号	(西暦)	できごと
昭和	1976年6月	有限会社 沖縄計測を設立
平成	1998年6月	有限会社から株式会社へ変更 株式会社 沖縄計測として業務開始
	2000年4月	公益財団法人 日本容器包装リサイクル協会(以下容リ協会)の認定を受け、リサイクル事業部 ペットボトル再生処理工場開設
	2003年3月	フェイス沖縄株式会社（グループ会社）を設立。沖縄計測第二工場として容リ協会の認定を受けペットボトル再生処理工場開設
	2003年12月	ISO9001認証取得（土木調査事業）
	2006年	リサイクル事業部にて廃プラスチックの再生処理を開始
	2011年11月	エコアクション21認証登録
	2012年4月	代表取締役会長 外間 博 就任、代表取締役社長 玉城 幸人 就任
	2012年12月	事業名称：平成24年度産業振興基金事業補助金 テーマ名：磁気探査データ処理システムの製作（土木事業部）
	2012年12月	磁気探査機器で動産担保（ＡＢＬ）融資を受ける。「ワールドビジネスサテライト」テレビ東京 全国放送
	2013年7月	事業名称：平成24年度補正ものづくり中小企業・小規模事業者試作開発等支援補助金 テーマ名：海上用磁気探査データ処理システムの製作（土木事業部）
	2014年	事業名称：平成25年度補正中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業 テーマ名：陸上用磁気探査機器の内部回路並びに外装の高精度・最適化（土木）
	2015年	事業名称：平成26年度補正ものづくり・商業サービス革新補助金 テーマ名：分離機能を高度化した廃プラスチック選別機の試作開発（リサイクル）
	2016年12月	磁気探査機器のセンサーの内部構造に関する特許（第6053508号）を取得
	2017年	事業名称：平成29年度補正ものづくり・商業サービス経営力向上支援補助金 テーマ名：磁気探査におけるデジタル測定データのAI解析技術の開発（土木）
	2018年12月	経済産業省より「地域未来牽引企業」に選定
	2019年1月	中小企業庁より「経営革新支援」の認定（土木調査事業部）
	2019年3月	沖縄県より「経営革新計画」の認証を受ける（土木調査事業部）

# 会社沿革～当社49年のあゆみ

元号	(西暦)	できごと
令和	2019年10月	第48回発明くふう展、特許・実用新案の部で「磁気探査機器」(第6053508号)が沖縄県知事賞優秀賞を受賞(土木)
	2020年3月	沖縄県の「おきなわSDGsパートナー」に登録
	2020年4月	ISO9001認証の自主返上(土木調査事業部)
	2020年10月	厚生労働省 沖縄労働局「ひやみかち健康経営宣言」を登録
	2020年10月	全国健康保険協会より「(福寿うちな～健康宣言)事務所」として認定
	2020年11月	磁気探査結果記録装置(制御方法・制御プログラム)に関する特許(第6799195号)を取得
	2021年2月	磁気探査装置(磁気探査方法・磁気探査プログラム)に関する特許(第6833096号)を取得
	2021年3月	経済産業省より「健康経営優良法人」に認定
	2021年3月	事業名称: 令和元年度補正ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金 テーマ名: 磁気異常近傍での不発弾探査技術の開発(土木)
	2021年6月	建設コンサルタント登録 建03第10826号
	2021年9月	磁気探査システム及び磁気探査方法(強磁性体近傍探査)に関する特許(第6940910号)を取得
	2021年9月	磁気探査システム及び磁気探査方法(強磁性体近傍探査)に関する特許(第6940911号)を取得
	2021年9月	磁気探査データ処理システムがNETIS登録(土木)
	2022年3月	代表取締役会長 外間 博 退任
	2022年10月	事業継続力強化計画の認定取得
	2022年12月	令和元年度補正・令和三年度補正 ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金(11次締切) 「磁気インピーダンス効果を用いた局所磁気傾度測定システムの開発」採択
	2023年3月	自社開発で磁気探査の記録・解析をデジタル化
	2023年10月	第52回 沖縄県発明くふう展 県知事賞 優秀賞

## ▼ 会社沿革～当社49年のあゆみ

元号	(西暦)	できごと
令和	2023年11月	屋外実験場（R&Dセンター）設置
	2023年11月	カンボジア地雷対策センター（CMAC）のヘン・ラタナ長官来訪
	2024年2月	カンボジア地雷対策センター（CMAC）の副長官来訪
	2024年3月	建設コンサルタント登録抹消
	2024年5月	本社 AED（自動体外式除細動器）設置
	2024年6月	カンボジアへ出張 カンボジア地雷対策センター（CMAC）を訪問 T I M A（トレーニングセンター）・CMAC博物館・地雷探査現場の見学
	2024年8月	企業型DC（企業型確定拠出型年金）制度導入
	2025年2月	JICA地雷担当者来社（磁気探査実験場見学受け入れ）

# ▼SDGsの取り組み 私たち沖縄計測は持続可能な開発目標『SDGs』を推進しています。



## 沖縄計測の取り組み

### 【土木調査事業部】



磁気探査、深浅測量、地質調査、外構設計、測量設計、磁気探査機器等の開発及び販売、開発申請許可業務を通じて、安全な環境づくり並びに社会経済発展に向け取り組んでいます。

### 【リサイクル事業部】



公益財団法人日本容器包装リサイクル協会の登録事業者として廃ペットボトルの再生処理及び一般・産業廃棄物の中間処理並びに収集運搬を実施しており、循環型社会構築に向けた取組を行っています。

### 【エコアクション21】



「地球温暖化対策・循環型社会形成の推進」及び「自然共生社会構築」に貢献すべく環境に配慮した取組（CO<sub>2</sub>・水・廃棄物の削減・グリーン購入の推進）を行っています。

### 【情報発信】



当社ホームページ及びイベント等への出展、社会人講和を通じてSDGsの啓発活動に取り組んでいます。



# SDGsの取り組み

私たち沖縄計測は**持続可能な開発目標『SDGs』**を推進しています。

## ★令和6年度 主な取り組み内容

目標	取組内容		目標	取組内容	
	土木調査事業部	リサイクル事業部		土木調査事業部	リサイクル事業部
<b>4.質の高い教育をみんなに</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「磁気探査DX推進機構」へ勉強会講師派遣</li> <li>・測量勉強会</li> <li>・安全衛生講習</li> <li>・ポリテクセミナー</li> <li>・OFF-JT</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取引先への啓発活動の強化</li> <li>・作業手順書の活用及びメンテナンス記録の見直し</li> <li>・工場管理者の育成</li> <li>・(月1回)安全衛生講習</li> <li>・OFF-JT</li> </ul>	<b>11.住み続けられるまちづくり</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄市市制50周年式典特別功労賞受賞</li> <li>・AED屋外収納BOX設置</li> </ul>  	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境関連出展及び講習会登壇</li> <li>・環境啓発活動(環境展出展・サキュラーエコミー講習会登壇)</li> </ul>
<b>7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CO<sub>2</sub>・水・廃棄物排出量の削減取組</li> <li>・OFF-JT</li> </ul>  	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CO<sub>2</sub>・水・廃棄物排出量の削減取組</li> <li>・OFF-JT</li> </ul> 	<b>12.つくる責任つかう責任</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DXの推進(計画書の策定)</li> <li>・機器・アプリ開発</li> <li>・OFF-JT</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DXの推進</li> <li>・PETボトル再生品の品質向上への取組</li> <li>・OFF-JT</li> </ul>
<b>8.働きがいも経済成長も</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康診断</li> <li>・インフルエンザ予防接種</li> <li>・社員研修</li> <li>・健康保健指導</li> <li>・企業型DC導入</li> <li>・OFF-JT</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康診断／騒音特殊健康診断</li> <li>・インフルエンザ予防接種</li> <li>・OFF-JT</li> </ul>	<b>13.気候変動に具体的な対策を</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CO<sub>2</sub>・水・廃棄物排出量の削減取組</li> </ul>  	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CO<sub>2</sub>・水・廃棄物排出量の削減取組</li> </ul> 
<b>9.産業と技術革新の基盤をつくろ</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外展開の推進(カンボジア出張)</li> <li>・沖縄高等学校業界研究会</li> <li>・R&amp;Dセンターの活用</li> <li>・OFF-JT</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高機能脱水機の更新(2台)</li> <li>・OFF-JT</li> </ul>	<b>17.パートナーシップで目標を達成しよう</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CO<sub>2</sub>・水・廃棄物排出量の削減取組</li> <li>・DXの推進、DX認定取得</li> <li>・海外展開の推進</li> <li>・OFF-JT</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CO<sub>2</sub>・水・廃棄物排出量の削減取組</li> <li>・DXの推進</li> <li>・OFF-JT</li> </ul>



# 事業内容

## 土木調査事業部



磁気探査

陸上及び海上における不発弾の探査を行っています。



測量設計

港湾・漁港・道路建設等の測量を行っています。



土質調査

建設などの設計及び施工に必要な試料を得るために行っています。

沖縄県では、第二次世界大戦時の不発弾が現在でも多数埋没しており、工事などで地盤を掘削する場合には、不発弾による事故のないよう事前に磁気探査を行い安全を確かめなければなりません。また、海中では、不発弾の他にも戦時中に敷設した機雷も未だ残存していると言われており、陸上と同様に磁気探査による安全確認を行わなければなりません。

NETIS登録

両コイル型磁気傾度計販売

他社との共同開発により磁気傾度計の製品化及び販売、またデジタル磁気探査システム「J-SOK」の開発及び販売を行っています。

住宅・工場・事業所 などの建築工事 敷地などの土地活用 を考えるの前提へ 土地の不発弾探査はお済みですか？ 不発弾探査の費用を 最大100%補助します！

不発弾探査を実施することで、 土地活用及び周辺住民の安全に繋がります

**広域探査発掘加速化事業**  
畑や原野など、主に建築工事を行わない土地に対して不発弾探査を行う事業。

**住宅等開発磁気探査支援事業**  
住宅の新築・建て替え、その他民間工事を行う際の不発弾探査費を補助する事業。

## i-Construction

国土交通省では、建設現場における生産性を向上させ、魅力ある建設現場を実現する i-Construction (アイ・コンストラクション) の取組を進めています。平成28年度から土工工事の調査、測量、設計、施工、検査など各プロセスにICTを全面導入し、平成29年度からICT浚渫工を導入しています。当社でも3次元データを活用したICT施工を導入し、作業の効率化、精度向上を図ります。

### 【3Dレーザースキャナ測量】

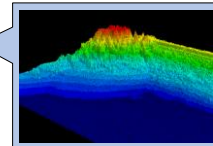
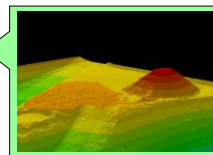
従来は計測に時間を要した密度の高いデータ取得が容易になり、3D化が可能になりました。横断面図作成や横断面積の算出が形状に反映した形で成果が得られ、作業の効率化に至っています。

### 【マルチビーム深浅測量】

海域における海底地形測量は深浅測量と呼ばれます。近年の測量技術の進歩に伴い、より精度の高い技術を取り入れることで、正確な地形の把握を行うことが可能となりました。当社が採用しているマルチビーム深浅測量は、扇状に発振する音波によって海底地形を面的に捉えることができ、港湾・水路・河川・ダム・湖等の海底・湖底を3Dデータで計測することができます。これにより、港湾の測量では浚渫面積と土量の正確な測定が可能となりました。

### 【UAV（ドローン）の活用】

新技術と組み合わせるUAVを検討中



# 事業内容

● 土木調査事業部

## ものづくり(1/2)



第一次開発	年度		
	2010年	品質安定化及びデジタル出力対応計画の策定・開始	第一次開発
第二次開発	2011年	デジタル出力対応 陸上用磁気探査機器開発 試験運用開始	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機器の品質安定</li> <li>・デジタル出力への対応</li> </ul>  <p>目標達成</p>
	2012年	センサー内部構造に関する特許を共同出願 故 姫野准教授（沖縄職業能力開発大学校） 株式会社村田製作所  沖縄銀行よりABL（動産担保融資）を受ける	
	2014年	デジタル出力対応 海上磁気探査機器開発 「平成24年度ものづくり中小企業・小規模事業者施策開発等支援事業」を活用	
	2018年	高機能化及び付加価値向上計画の策定・開始 「平成25年度中小企業・小規模事業者ものづくり商業・サービス革新事業」を活用 改良型磁気探査機器の完成  センサー内部構造に関する特許を取得 特許第6053508号    ※専用のカラーを製作・挿入し、ボビンとパーマロイを固定	
第三次開発	2019年	磁気探査における測定データのAI分析技術開発とサービス化計画の策定 「平成29年度補正ものづくり・商業・サービス経営力向上支援補助金」を活用 (株)沖縄海洋工機開発 沖縄高等工業専門学校との共同開発  特許第6053508号 「第48回発明くふう展、特許・実用新案の部」で 沖縄県知事賞優秀賞を受賞   取得	第二次開発
	2020年	特許第6799195号 特許第6833096号  計画変更 「令和元年度補正 ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金 2次締切」を活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AI分析技術の開発</li> <li>・無線ユニットのWi-Fiへの変更</li> <li>・強磁性体近傍における磁気探査方法の開発</li> <li>・近傍探査用機器(センサ・アンプ)</li> <li>・専用ソフトウェア</li> </ul> <p>主な目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市化に伴う磁気探査困難箇所の克服</li> </ul> <p>目標達成</p>
	2021年	目的 ・強磁性体近傍における磁気探査方法の開発 ・デジタル化データの活用	

# 事業内容



## ● 土木調査事業部

## ものづくり (2/2)

第四次開発 計画	年度		
	2022年	<p>目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分業による業務の効率化</li> <li>・WEBアプリ化によるビッグデータの取得</li> <li>・分析データのフィードバックを用いた精度向上</li> <li>・磁気探査機器のDX</li> </ul>	<p><b>第四次開発</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・WEBアプリ化</li> <li>・ネットワーク利用による連携強化</li> <li>・取得データの活用</li> <li>→データベースの構築を開始</li> </ul>
	2022年	<p>無人探査を目標 → 大規模な小型・軽量化 従来技術では不可能(コイルの性能限界)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>従来と異なる検知方法での磁気探査センサの開発 (新規追加)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新方式の不発弾探査適合性についての確認実験</li> <li>適合性有り、次年度から試作開発を本格的に行う</li> </ul> <p>令和元年度補正・令和三年度補正 ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金 (11次締切)</p> <p>「磁気インピーダンス効果を用いた局所磁気傾度測定システムの開発」採択</p>	<p>従来の両コイル型から一新した (仮称) UXO Search System 開発計画の実現可能性検討</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>計画名称変更 磁気インピーダンス効果を用いた局所磁気傾度測定システムの開発</p> <p style="text-align: center;"><b>詳細 極 秘</b></p>
	2023年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「磁気インピーダンス効果を用いた局所磁気傾度測定システムの開発」計画実施</li> </ul>	<p>実用品製作に向けた試作・実験</p> <p style="text-align: center;"><b>詳細 極 秘</b></p>
	2024年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「磁気インピーダンス効果を用いた局所磁気傾度測定システムの実用化」</li> <li>・強磁性体近傍における磁気探査の完全実用化 一部達成</li> <li>・下方安全確認センサ J-mus開発・実用化</li> <li>・J-SOKのアップデートによる効率化と省人化 (探査記録測定と探査状況写真の同期・探査記録と現場状況写真を一括したデジタルデータの作成・提出)</li> </ul>	<p>実用品製作に向けた試作・実験</p> <p style="text-align: center;"><b>詳細 極 秘</b></p>
	2025年	<p>※ 前年度から継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「磁気インピーダンス効果を用いた局所磁気傾度測定システムの実用化」</li> <li>・強磁性体近傍における磁気探査の完全実用化</li> <li>・機器の製造中止に伴う、新たなアンプの開発</li> <li>・J-SOKのアップデートによる効率化と省人化 (報告書の電子データによる一括提出・報告書チェック機能アプリの開発)</li> </ul> <p>※発展継承</p>	<p>前年度実施内容により判明した課題の解決</p> <p style="text-align: center;"><b>詳細 極 秘</b></p>

# 事業内容

● リサイクル事業部

混ぜればごみ 分ければ資源 (CO<sub>2</sub>削減)



ペットボトルのリサイクルをととして持続可能な循環型社会の構築及び島嶼が抱える沖縄の環境問題の一助となるよう、平成12年4月（公財）日本容器包装リサイクル協会の認定工場として廃ペットボトルの再生処理工場を開設しました。

## PETボトルリサイクルの流れ

### ①自治体の保管施設より収集

自治体の保管施設より、4tトラックや塵芥車にて回収し、指定場所へ保管します。



### ②保管状況

### ③解 俵

解俵により圧縮されたペットボトルをばらばらにします。

### ④振動コンベア

振動コンベアにより細かい異物を除去します。



### ⑤選別 異種ボトル（ペットボトル以外のボトル）やその他の異物を除去します。

### ⑥破 砕 ペットボトルを破砕機により細かく砕きます。

### ⑦ラベル除去 風力選別機によりラベルを除去します。

### ⑧比重分離

破砕されたペットボトルを比重分離によりペットフレーク（ペットボトル粉砕品）とキャップ粉砕品に分離します。



スーパーアルカリオン水装置により洗浄力を高めています。

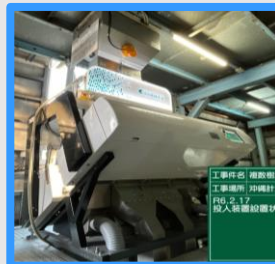


逆浸透膜設備により工業用水を浄化し給水します。

### ⑨フレーク洗浄

ペットフレークを洗浄します。

### ⑩フレークソーター



既存の色彩選別機は色のみの分別機能であったが、3種選別（素材・色・金属）機能を備えた最新鋭のフレークソーターを設置し、製品品質向上に繋がりました。

（R6・2月設置）

### ⑪乾燥

乾燥後、フレコンバックへ充填し出荷します。



県外へ出荷し下記の製品へ生まれ変わります。

出荷されたペットフレークはリサイクル製品製造メーカーにより、NBAのユニフォームやPETボトル(BtoB)・作業着・プリスターバックなどへ製品化

リサイクル  
製品へ





# 事業内容

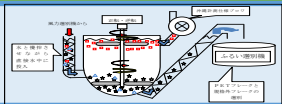



● リサイクル事業部

ものづくり



高度化リサイクル及び作業環境改善への取組

計画

年度	高度化リサイクルへの取組	作業環境改善への取組
2015年	平成26年度補正ものづくり「分離機能を高度化した廃プラスチック類選別機の試作開発」 	洗浄用給排水配管の整理[清掃時間の時短] 簡易脱水機の蓋設置[安全性の確保] 側溝蓋の整備[つまずき転倒防止]
2016年	色彩選別機導入（2023年フレークソータ設置により、色彩選別機撤去） 製品品質向上設備の増設（横型比重選）	敷地出入口飛び出し注意看板更新[出入り車両注意喚起] 処理水丸型タンクへアクリル蓋設置[安全対策] 選別室階段付近柱梁の改善[通路の拡大]
2017年	工業用水の導入、ファインバブルの導入、色彩選別機Wフィーダーへの変更、異物混入対策（ガラス対策）、丸型比重選シャフト改良	空調服の導入[熱中症対策]、泥乾燥棚製作[作業効率対策] トラックスケール更新[安全対策]、屋外保管エリアの整備[安全対策] 工場入口鉄板修繕整備[安全対策]、傾斜コンベアの角度調整[作業効率対策]
2018年	マグネット追加導入～異物混入対策（金属） 改良型マグネット追加導入～異物混入対策（金属） 工業用水貯水タンクを増設 異物除去（ガラス・砂等）振動コンベアを導入	投入ホッパー交換[作業効率対策]、傾斜コンベア交換[作業効率対策] 選別コンベア交換[作業効率対策]、金属排出コンベア修繕[作業効率対策] 作業架台の製作[バグフィルター交換時の転落防止]、作業動線の拡張[緊急時対策] 二次破碎機扉改良[騒音及び作業効率対策]
2019年	設備機器管理のタッチパネル化導入による一括管理 ・配線経路の改善、・異常個所の見える化、・保守、稼働管理の効率化	大型換気扇の設置[熱中症対策]、台秤の更新[作業効率対策] 選別室エアコン更新[熱中症対策]
2020年	一次破碎機投入コンベアの新設（逆転式） 高圧受変電設備更新	屋外保管エリアの鉄板敷整備[安全対策] 選別コンベアの更新[作業効率対策]、一次破碎機扉改良[作業効率対策]
2021年	一次破碎機の変更による能力UP 二次破碎機モーター変更による能力UP エアセパ装置の更新、スーパーアルカリオン水の導入	機器架台（ステージ）の増設[作業効率対策] （二次破碎機及びカラー破碎機上部・比重選側延長） 振動コンベアの更新[作業効率及び安全対策]
2022年	脱水機の更新（能力UP）2台及び投入コンベア更新（次年度へ）	フォークリフトバケット更新[作業効率及び安全対策]
2023年	フレークソーター新設 （令和5年度二酸化炭素排出抑制対策事業補助金） 脱水機の更新（能力UP）2台及び投入コンベア更新（次年度へ） 	中二階フロアの整備[作業効率及び安全対策]（次年度へ）
2024年	脱水機の更新（能力UP）2台 投入コンベア更新 解俵機更新 	中二階フロアの整備[作業効率及び安全対策]（一部次年度へ） コンプレッサ設置場所移動[作業効率及び安全対策] フォークリフトの更新 
2025年	解俵機の更新及び投入コンベアの更新 投入ホッパースクリューの更新	中二階フロアの整備[作業効率及び安全対策]

# ▼環境経営方針

## ＜基本理念＞

「素晴らしい地球と快適な環境づくり」をテーマに、株式会社 沖縄計測では『地球温暖化対策』及び『循環型社会形成推進』、『自然共生社会構築』に貢献すべく努力を重ね、更に環境配慮に努めた業務品質の向上を推進すると共に、環境経営の継続的改善を実施します。

## ＜行動指針＞

1. 当社の事業活動に関連する環境関連法規等を遵守し、その社会的責任を全うします。
2. 環境に配慮した製品・サービスの提供に尽力します。  
土木調査事業部：業務の品質向上を推進し、資源の使用量低減に努めます。  
リサイクル事業部：枯渇性天然資源の抑制と品質向上に努めます。
3. 循環型社会形成の一翼を担う企業として、省資源化、省エネルギー化に積極的に取り組み、廃棄物の適正管理に努めます。
4. グリーン購入を推進します。
5. 環境とQ Cを融合した戦略立案、組織体制の確立、人材育成を主とし  
技術、制度、及びシステムを構築し資源生産性の高い循環型社会を構築します。
6. この環境経営方針は、事業活動における更なる環境配慮の促進を図るため、全社員に周知徹底し、社内外に公表します。

制定日：平成22年 5月10日  
改訂 第5版：令和 6年 4月 1日

株式会社 沖縄計測  
代表取締役 玉城 幸人

# 令和6年度 経営における課題とチャンス（環境への配慮）



## ● 土木調査事業部

課題		チャンス	
外部要因	内部要因	—	—
○		人手不足による長時間労働	労働環境条件の良さ
	○	離職者が多い	給与形態の見直し
	○	労働時間の偏り（力量不足）	企業型DCを含む福利厚生の実施による採用の優位性
	○	人材育成	業務の効率化（時間外労働削減）
			計画的な教育講習時間の確保
○		物価上昇による家計への負担	見積書適正価格の見直しによる利益率UP
	○		賃金UP
○	○	デジタルシフトを終えDXへの取組	企業価値の向上
			業務の効率化、OJT・OFF-JTの向上
○	○	デジタル機器（J-SOK）の普及	自社開発機器を所有、さらに販売による標準化
			NETIS登録による普及加速化
○	○	解析ソフト(サブスクリプション)の普及	利益の確保（外部）
			業務の効率化（内部）
○	○	成果品のペーパーレス化	若手技術者がいること及びソフト開発事業者との連携によるデジタル成果品作成ソフトの開発及び販売
○	○	J-SOK取扱技術力不足	社内有志による勉強会の開催
			顧客満足度UP
	○	勤怠管理業務	クラウド勤怠の円滑な運用による業務効率化
○	○	クレーム対応	社員技術力向上、製品の品質向上による顧客からの信用度UP
○	○	本社の立地問題	新ヤード活用による労働環境改善
	○	経営資源の管理不足	管理者の経営に対する意識の向上
			業務管理クラウドソフトの有効活用
○	○	同業他社との競争激化	海外展開
			ドメインの拡張及び新規ドメインの開拓

## ● リサイクル事業部

課題		チャンス	
外部要因	内部要因	—	—
○		離職者が多い	労働環境条件の良さ
			・指導者（有資格者）の存在・教育時間確保のゆとり
	○	労働時間の偏り	・福利厚生の実施による採用の優位性
	○	人材の育成（管理者育成）	・企業DCの推進
			業務の効率化（時間外労働削減）
			安定的な生産
	○	重労働な作業	社員の負担軽減
○		物価上昇による家計への負担	入札の適正価格の見直しによる利益率UP
			賃金UP
	○	勤怠管理業務	クラウド勤怠の円滑な運用
○	○	製品品質向上	最新設備の保有
			安定的な製品販売、顧客満足
○	○	クレーム対応	社員技術力向上、製品の品質向上による顧客からの信用度UP
○	○	情報収集不足	営業力強化、適正価格による利益率UP
○		製品販売価格の変動	高品質な製品づくりによる販売先の確保
○		廃棄対象の原材料	原材料増量（廃棄対象物の受け入れ）
	○	非効率な計量作業	システム変更による業務効率化
	○	工場施設の整理整頓清掃	整理整頓清掃による安全及び業務効率化
	○	生産管理業務	生産管理データ入力効率化
	○	夏季冬季の生産量差によるCO2排出量の偏り	生産量のフラット化によるCO2排出量の削減



# 令和6年度 取り組み目標と結果

## 環境経営目標 (土木調査事業部)



◇CO<sub>2</sub>・水・廃棄物排出量の削減

◇経営力向上・組織の活性化

◇スキルアップ及び人材確保

◇健康経営の推進

### 環境経営計画 ◇経営力向上・組織の活性化

環境経営目標及び計画	取り組み結果及び評価
・CO <sub>2</sub> ・水・廃棄物排出量の削減	p 19～27に記載。
・DXの推進、DX認定取得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DX意見箱については、みんなからの認識が薄れているので再度、通達し機能させる。</li> <li>・今年度取得を目指していた「DX認定」は次年度へ持ち越す。</li> <li>・Kintoneは、今後も使いやすいように改善など行っていく。</li> <li>・J-SOKカメラアプリは、引き続きアップデートし改善していく。</li> </ul>
・公共工事の受注 磁気探査業務 測量業務 地質調査業務 設計業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今期を振り返ると一般競争を含め多数の入札に参加した。</li> <li>・積算精度は向上しているが、失注している為、過去のデータを精査し、今後受注に向けて取り組んでいく。</li> <li>・下請けや住宅等事業など受注済み業務とバッティングするため、受注が難しい案件も多数あった。</li> </ul>
・民間発注の設計業務 (外構設計・工作物申請等)の受注 ・民間支援業務のコンスタントの受注	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間支援事業については、受注件数は目標数値を上回り、目標達成となった。また民間発注の設計業務は、未達成であったため、次年度、受注できるように努力したい。</li> </ul>
・J-SOKの販売 ・強磁性体近傍探査の受注	<ul style="list-style-type: none"> <li>・J-SOK販売は、目標未達となった。在庫数が少ない為、まずはその分から販売促進を行う。また、今年度開発した機器 j-musとクラウドサービスについてもリース契約を展開したが、契約できていない為、契約促進に取り組む。</li> </ul>
・海外展開の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カンボジア地雷対策センター（CMAC）へ視察訪問し、協力体制を構築できた。</li> <li>・2024年度中小事業・SDGsビジネス支援事業にエントリーを行ったものの、12月に不採用となった。</li> <li>・2025年度については、新たな戦力構築が必要となる。</li> </ul>
・泡瀬ヤード活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度にて、事務所からコンテナ・プレハブ移動及びプレハブ3基の設置・トイレ新設・電気引き込みなど計画した全ての作業を完了した。近隣住民への騒音に配慮し、かつ作業環境を整える事ができた。</li> </ul>
・屋外実験場（R&Dセンター）の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験場入口からテストベンチ後方への駐車スペースを整地した。実験場が整備された事で、機器開発の為の実験がスムーズに行えるようになった。又、JICA地雷対策班が実験を見学に来るなど、弊社の開発への取り組みが注目されている。</li> </ul>
・新技術の開発（ものづくり補助金の活用）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JSD評価実験データが収集できていない。評価実験のスケジュールの見直しが必要である。</li> <li>・新機種の開発が計画通りに出来ていない。評価実験のスケジュールの見直しが必要である。</li> </ul>

# 令和6年度 取り組み目標と結果

## 環境経営目標 (土木調査事業部)



◇CO<sub>2</sub>・水・廃棄物排出量の削減

◇経営力向上・組織の活性化

◇スキルアップ及び人材確保

◇健康経営の推進

### 環境経営計画

#### ◇スキルアップ及び人材確保（業務効率化による時間外労働の削減）

環境経営目標及び計画	取り組み結果及び評価	
・社員のスキルアップを行う （個人別スキルアップ計画）	別紙参照：（令和6年度）環境経営・品質目標取組策定	左記と 同じ
・人材確保（令和7年度採用目標：3名）	令和7年度に向けて、新入社員を3名採用することができた。また既に、令和8年度新卒採用について問い合わせが来ている。社員採用に向けて計画的に取り組んでいく。今年度は計画していた社内のコミュニケーション向上のための食事会やイベントができなかったため、次年度開催できるよう計画していきたい。	×
・3次元業務 技術者育成（属人化の解消）	・一年を通して3次元業務の案件が少なく、経験量が不足している。 ・案件を増やして定期的に業務に携わる事が、最善の対策になる。	×

#### ◇健康経営の推進

環境経営目標及び計画	取り組み結果及び評価	
・時間外労働の削減：15H／月 （労働時間の平準化）	未達成。 非管理者で、残業が月平均で30時間を超える者に対し、時間外の内容（平日・休日別、現場・内業別等）についてヒアリングを実施し、現状把握を行った。 また、管理者においても自らの時間外労働の圧縮を図るよう、具体的案を講じることを指示した。	×
・年次有給休暇の徹底（付与分の50%以上）	未達成。 取得率50%以上の達成者は、全体の6割となっている。 担当上長は、部下に対し年次有給休暇をどうやったら取得できるかなど、ヒアリングを実施している。	×
・二次健康診断の受診率（100%）	達成。だが最後の受診者は年度末の3月だった。総務からの声かけ、自己管理を徹底していく。	○

# 令和6年度 取り組み目標と結果

## 環境経営目標 (リサイクル事業部)



◇CO<sub>2</sub>・水・廃棄物排出量の削減

◇経営力向上・組織の活性化

◇スキルアップ及び人材確保

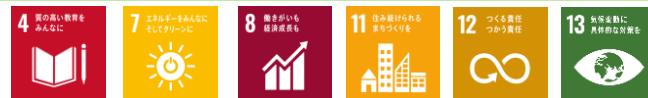
◇健康経営の推進

### 環境経営計画

環境経営目標及び計画		取り組み結果及び評価	
◇CO <sub>2</sub> ・水・廃棄物排出量の削減（数値目標は p 40に記載）			
◇経営力向上・組織の活性化　：　安定生産（ハード面）[設備更新、製品品質向上など]			
・脱水機の更新2台（能力UP） ・投入コンベア更新	洗浄脱水能力の高い機器を選定し更新した結果、製品品質が向上し作業効率も良くなった。		○
解俵機及び投入コンベア更新	設計の段階で確定できず設置に至らなかった。 作業効率を考慮した設計の見直しを行い次年度にて実施する。		×
機器不具合箇所の洗い出し→改善	トラブルの多い機器について優先的に更新や取り換えることを実施し、効率の良い稼働に繋げることが出来た。		○
中二階床の保全	既存鉄板床の修繕及びパレット敷箇所を鉄板へ変更したことにより、安全性及び作業効率が良くなった。 解俵機周辺については次年度へ繰越となった。		○
入荷量の安定確保（枯渇資源の使用量削減によるCO <sub>2</sub> 削減）	上期・下期共に予定量の落札を達成し、計画通り生産を実施出来た。 入札の情報収集等準備不足があったので、次回に向けて体制を整える。		○
異物除去体制の強化→品質向上対策ミーティングの強化（製品品質向上）	始業前ミーティングにて、異種ボトル等の除去すべきボトルの周知を徹底し、また、選別方法習得のためグループ毎の勉強会を実施した。		○
取引先への啓発活動の強化（製品品質向上）	年に1回、自治体毎にパール品(原料)の品質検査を実施しており、異物混入の改善に向けて取り組んでいただける事となった。また、事業系の企業を訪問し、原料の量の確保と品質を高める相談を実施した。		○
工場施設の整理整頓清掃	不要な機器の整理（処分）を行い保管エリアの整理が出来た。 備品棚や工具棚の整理整頓不足があり、継続的に意識付けを行う。		×

# 令和6年度 取り組み目標と結果

## 環境経営目標 (リサイクル事業部)



◇CO<sub>2</sub>・水・廃棄物排出量の削減      ◇経営力向上・組織の活性化      ◇スキルアップ及び人材確保      ◇健康経営の推進

### 環境経営計画

環境経営目標及び計画		取り組み結果及び評価
◇ <b>経営力向上・組織の活性化</b> : 安定生産（ソフト面）[業務の効率化]		
稼働月報管理の効率化	手書き日報をタブレット入力へ変更し、現場にて入力することで作業効率を図る計画であったが、エクセル月報の整理に留まり実施出来なかった。	×
クラウド会計及び勤怠業務のスピード化	クラウド環境の移行により特定のPCにソフトを固定する必要がなくなり、柔軟な業務対応が可能となった。更に、データのインポート及びエクスポート機能を活用し作業のスピードが向上している。	○
作業手順書の活用及びメンテナンス記録の見直し	手順書の見直しを実施したが完成に至らず、また、メンテナンス記録の記載漏れがあり未達であった。経験の浅い社員にわかりやすい資料作成を継続する。	×
◇ <b>社員の力量向上</b>		
工場管理者の育成（3年以上勤務社員）	工場管理者としてのリーダーシップ・問題解決及びリスク管理のマネジメントを意識した教育が不足し、未達となった。	×
工場生産管理の強化（3年未満勤務社員）	勤続年数に応じたメンテナンスや一通りの稼働が出来るようにしていく計画であるが、年数に応じた習得には至らず未達となった。	×
◇ <b>健康経営の推進</b>		
時間外労働の削減(0H/月)	全員未達。突発的休暇者対応や修繕及び回収業務等の他、稼働延長による要因で未達となった。引き続きシフト管理の工夫と力量アップの教育を実施する。	×
年次有給休暇取得の徹底(付与分の50%以上)	該当者11名中、達成者9名（81.8%）で未達であった。取得計画の甘さがあり四半期毎の確認を強化する。	×
二次健康診断の受診率（100%）	二次検診該当者へ受診の促しに際し、勤務シフトによる人員配置の調整を実施し、100%の達成となった。次年度は二次検査の対象とならないよう健康管理を促す。	○

# 令和6年度 取り組み目標と結果

## CO2排出量 取り組み結果

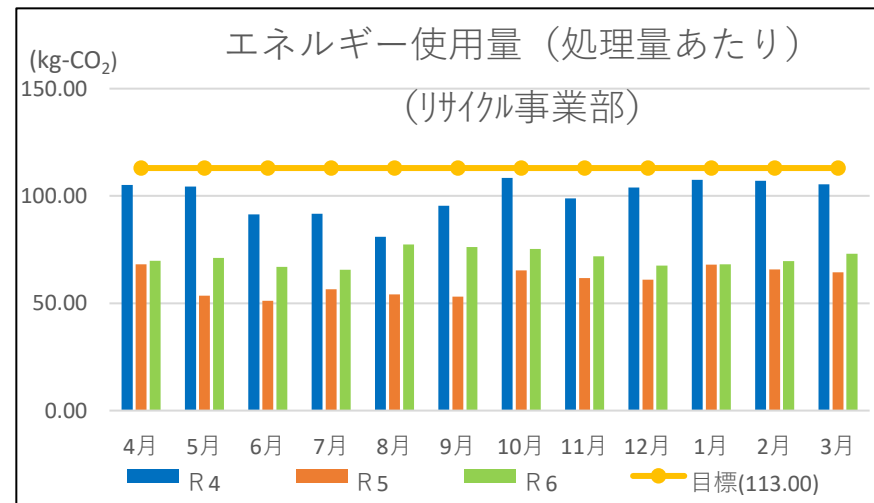
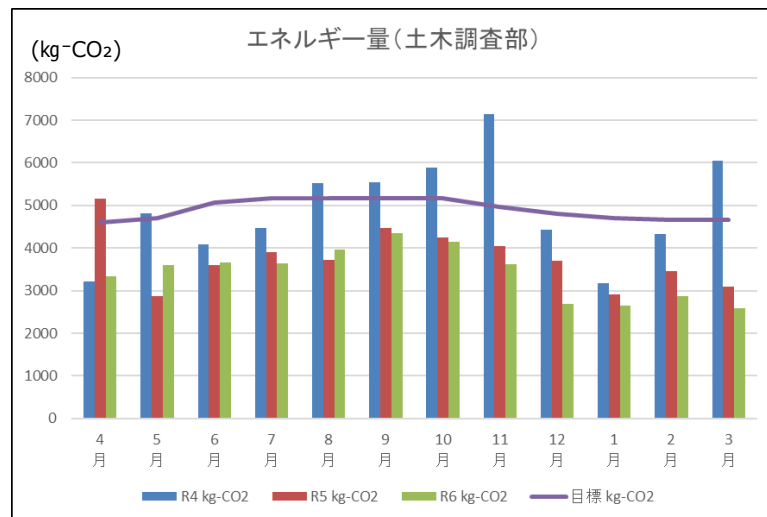


※3年ごとで見直し

中期計画（CO <sub>2</sub> 排出量）		CO <sub>2</sub> 排出量係数（0.452kg-CO <sub>2</sub> /kWh 沖縄ガスニューパワー2023年度調整後係数）						
項目	年 度 単 位	基準値 基準年度	R4年度		R5年度		R6年度	
			目標	実績	目標	実績	目標	実績
土木調査事業部	kg-CO <sub>2</sub>	58,782 (3年間平均)	58,782	58,216	58,682	45,160	58,582	41,142
リサイクル事業部	kg-CO <sub>2</sub> / t (処理量当り)	114 (R3年度目標値)	114	99.91	113.5	61.11	113.0	71.07

達成

達成





# 令和6年度 取り組み目標と結果

## CO2排出量 取り組み評価

二酸化炭素排出量削減の取り組み			
具体的計画	担当	取り組み結果	評価
エアコンの設定温度、不要照明消灯の意識付け	全社員	朝礼、工程会議、Kintone 掲示板への告知など、随時注意を促しているが、徹底できていない。(土木)	×
太陽光パネルの活用、ソーラーパネル車両の活用	土木調査事業部	太陽光パネルで発電した電気は自社で活用し、CO2排出量削減に繋がっている。 ソーラーパネル車両は、現在は故障の為、取り外し使用していない。	×
生産稼働方法の工夫により使用電力量を抑える	リサイクル事業部	連続稼働の工夫（交代稼働）、順次始動停止の実施、緊急停止が減ったことで電力量の削減に繋がった。	○
エコドライブの推進（継続）	全社員	安全講習でエコドライブについて講習し、エコドライブについての取組を再認識する事ができたが、会社駐車場内のアイドリングストップを規定しているが守られていない。休憩所の確保など根本的な対策が必要。	×
定期的なタイヤの空気圧点検	車両管理責任者	各車両担当に管理をさせているが、徹底できていない。点検をする計画の見直しが必要だと考える。	×
低燃費車両の導入	車両管理責任者	社用車として電気自動車を購入し、CO2排出量削減を推進している	○
出発前の使用道具確認の徹底（機器類：2日前までの動作確認）	土木調査事業部	現場当日の機器の不具合及び忘れ物は注意喚起により減少しているが、徹底できていない。忘れ物は、全てにおいて不利益だということを周知し、左記計画を実行させる。	×
使用車両の台数管理	全社員	Kintoneでの台数管理を行い、実施されている。	○
使用機器等の定期点検・管理	土木調査事業部 リサイクル事業部	【土木】 機器の（センサ・アンプ）定期点検は、機器校正証明書一覧表で管理し、実施しているが、現場から現場へ機械の移動が多く、こまめな点検ができていない。 【リサイクル】 稼働状況に応じた点検のタイミング遅れがあった。	×
磁気探査システム（デジタル化）による業務の効率化	土木調査事業部	現場使用機材の減少、カメラアプリ開発に伴い、人員配置が少なく済み、探査記録のデータ共有による解析作業・写真整理の分担により、更なる効率化に繋がった。	○

**評価と分析（土木調査事業部）**

年間を通してエネルギー使用量は目標達成となった。節電ポップを付けた事で、電源のON・OFFを細目に行っている。一方で、パソコンのつけっぱなし、長時間の充電などが度々みられ、社員への節電の取組意識が徹底できていない。朝礼や工程会議、Kintone 掲示板を活用し、意識づけを徹底していく。エコドライブについては、定期的に講習を行うよう計画し取り組んでいく。トイレの電球について、人感センサーへ取り替えした事により電気の消し忘れもなく、必要な時だけ電気が付くので、小さな事だがエネルギー削減に繋がっている。

**評価と分析（リサイクル事業部）**

処理量当たりの目標値は達成となった。シーケンス制御による順次稼働・停止のシステムや瞬時値kWを意識した機器稼働を継続し、目標達成に繋がった。

一方で人的ミスによる機器トラブルが発生し、稼働停止による無駄なエネルギー発生要因があり、社員の力量向上への教育を実施し、さらなるCO2排出量の削減に努める。

また、エコドライブ講習を実施し、車両におけるCO2排出量削減の意識付けに繋がった。

# 令和6年度 取り組み目標と結果

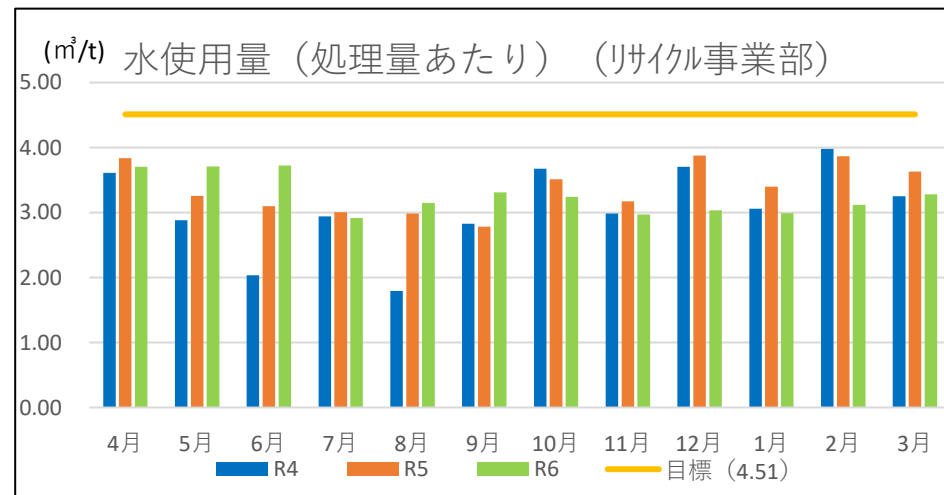
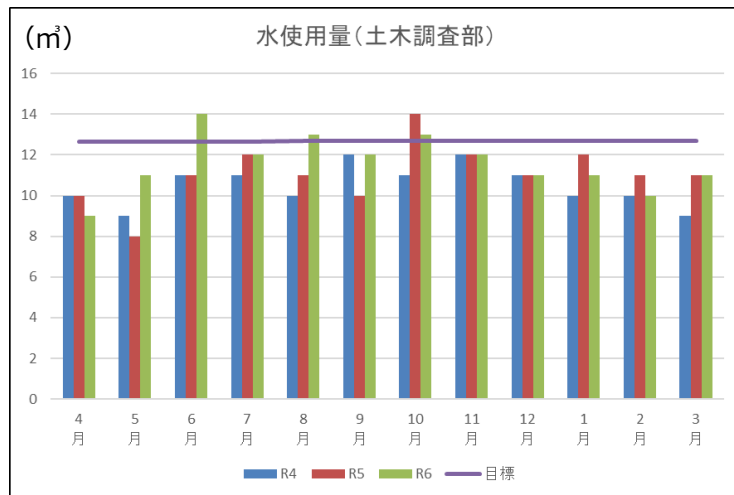
## 水使用量 取り組み結果

※3年ごとで見直し

中期計画（水使用量）								
項目	年 度 単 位	基準値 基準年度	R4年度		R5年度		R6年度	
			目標	実績	目標	実績	目標	実績
土木調査事業部	m <sup>3</sup>	152 (3年間平均)	152	126	151	133	150	139
リサイクル事業部	m <sup>3</sup> /t (処理量当り)	45.1 (R3年度目標値)	4.51	3.06	4.51	3.36	4.51	3.24

達成

達成





# 令和6年度 取り組み目標と結果



## 水使用量 取り組み評価

### 水資源使用量削減の取り組み

具体的計画	担当	取り組み結果	評価
雨水タンクを活用し草木の水やり継続して使用する (上水道は使用せず100%雨水を使用)	リサイクル事業部	貯水タンクに雨水を貯め、事務所側の草木の水やりへの活用を継続している。	○
循環水を活用する	リサイクル事業部	一度使用した洗浄水を繰り返し使用できるよう粉・汚れを分別し、新たにリターン洗浄水として使用している。	○
廃プラ工場（洗浄機等）の投入水量の管理の強化	リサイクル事業部	流量計を各箇所に設置し、入水量の確認及び品質管理の徹底を行っている。	○



節水シール  
(継続)



水量計の追加・交換・表示  
(継続)



### 評価と分析（土木調査事業部）

目標達成。年間を通して水使用量は目標値を下回っている。夏場や雨の季節に多く使用している傾向がある。  
事務所内では水回りの見える場所にステッカー等を設置し、節水の意識づけをさせる。  
ヤードでは、機械洗浄用に雨水タンクを設置・活用する事によって、水使用量を抑えることができた。

### 評価と分析（リサイクル事業部）

処理量当たりの目標値は達成となった。今回の脱水機の更新に伴い、工業用水とリターン水活用の見直しを実施した。機器ごとの流量計による管理を行い、製品品質向上のための洗浄水の安定供給を図りつつ、水使用量削減に努めた。更に、貯水タンク及びろ過機、各種配管の定期清掃を実施し、洗浄水の水質の維持に繋がった。

# 令和6年度 取り組み目標と結果



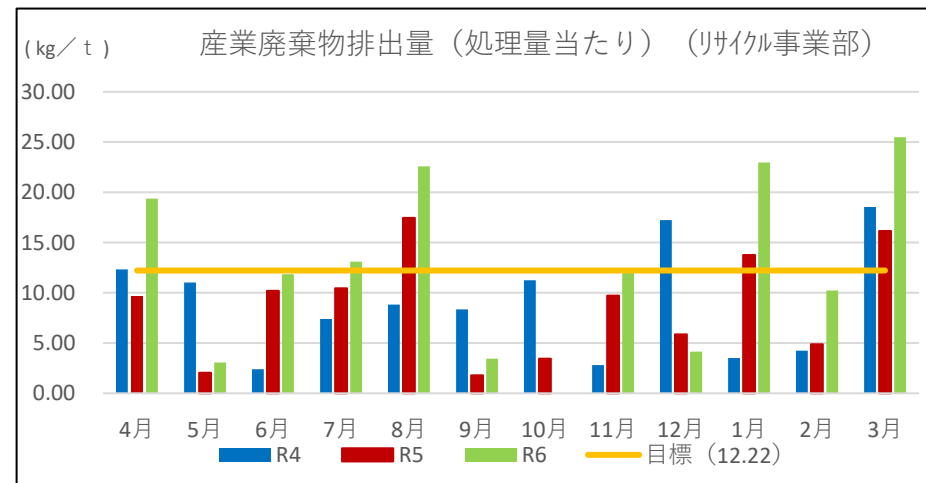
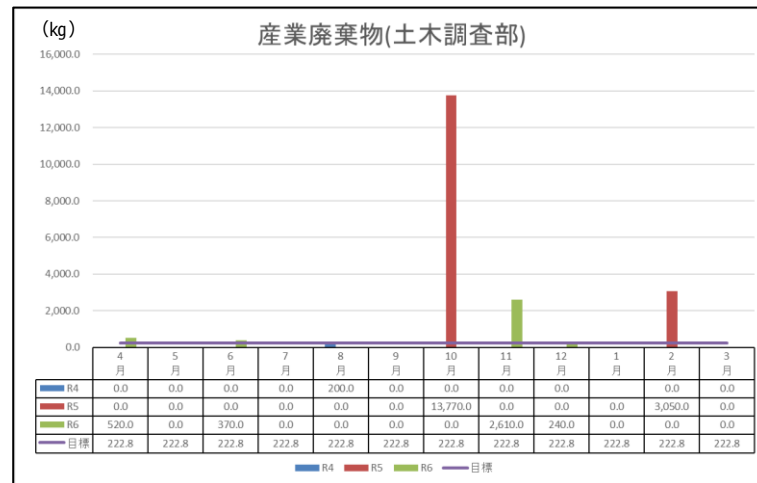
## 廃棄物（産業） 取り組み結果

※3年ごとで見直し

中期計画（産業廃棄物排出量）								
項目	年 度 単 位	基準値 基準年度	R4年度		R5年度		R6年度	
			目標	実績	目標	実績	目標	実績
土木調査事業部	k g	2,674 (3年間平均)	2,674	200	2,574	16,820	2,474	3,740
リサイクル事業部	k g / t (処理量当り)	27.78 (R3年度目標値)	注 12.26	5.04	12.24	4.75	12.22	12.18

未達

達成



# 令和6年度 取り組み目標と結果

## 廃棄物（産業） 取り組み評価



### 二酸化炭素排出量削減の取り組み

具体的計画	担当	取り組み結果	評価
適正な分別を行い、資源化へと繋げる	廃棄物排出削減部門	資源化できるモノは分別し、適正に処理している。	○
パル品検査による品質検査とごみ混入防止の啓発活動	リサイクル事業部	品質向上及び廃棄物削減を行うため、産業まつりや学校での講演を行い、リサイクルの意識付けを行った。	○
空き缶・鉄類のリサイクル	リサイクル事業部	種類別に回収ボックスを設置し、分別・リサイクルの徹底を行っている。	○
汚泥を乾燥させ、廃棄物を減量する	リサイクル事業部	水分を含んだ汚泥を天日干し、排出量削減に努めている。	○
廃ラベルを燃料資源として再利用する	リサイクル事業部	廃棄物となるラベルを燃料として再活用している。	○
作動油の適正管理	廃棄物排出削減部門	保管箇所に保管し、定期的に処分業者に引き取りを依頼している。	○



適正な分別  
を行っています



汚泥の乾燥で  
コスト削減！



#### 評価と分析（土木調査事業部）

数値目標は未達となった。産業廃棄物に関しては、4月・6月のヤード整備、11月の業務に伴う汚泥処理、12月の本社前排水路整備により目標値超過が認められたが、これらに継続性はないこと、また継続的に廃棄された産業廃棄物がなかったことから、実際には、目標は達成されたと言える。次年度も排出量を削減し続けられるよう、意識付けを行う。

#### 評価と分析（リサイクル事業部）

処理量当たりの目標値は達成となった。水分を含んだ汚泥の天日干しを継続し排出量削減に努めた他、受け入れ先への異物除去の啓発活動により削減に繋がったと考えられる。今後も見学の受け入れ・環境展の出展・学校への出前授業等により、リサイクルに対する啓発活動の継続に努める。

# 令和6年度 取り組み目標と結果

## 廃棄物（一般） 取り組み結果

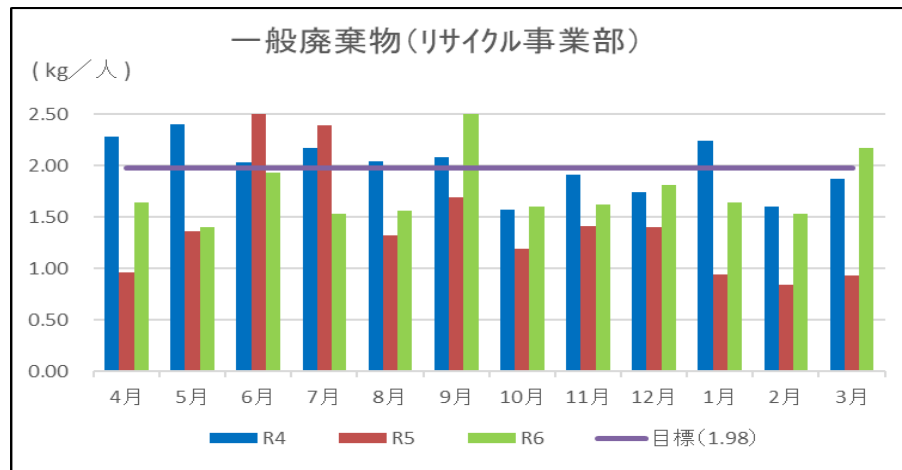
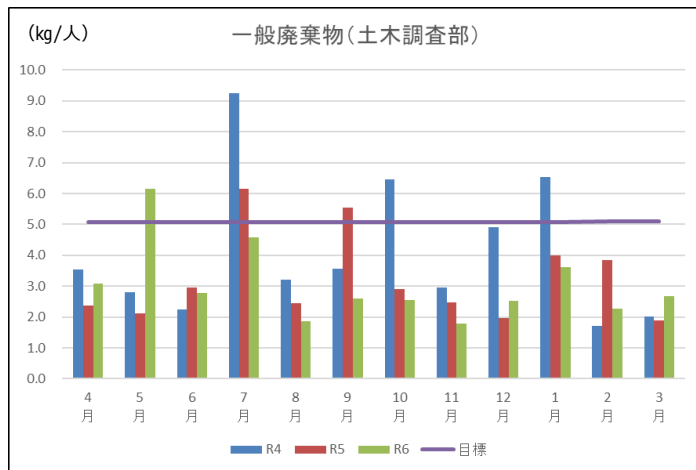
※3年ごとで見直し



中期計画（一般廃棄物排出量）								
項目	年 度 単 位	基準値 基準年度	R4年度		R5年度		R6年度	
			目標	実績	目標	実績	目標	実績
土木調査事業部	kg (1人当り)	61 (直近3年間平均)	61	49	60	39	59	37
リサイクル事業部	kg (1人当り)	24.00 (R3年度目標値)	24.00	23.97	23.90	16.59	23.80	23.03

達成

達成



# 令和6年度 取り組み目標と結果

## 廃棄物（一般） 取り組み評価



### 二酸化炭素排出量削減の取り組み

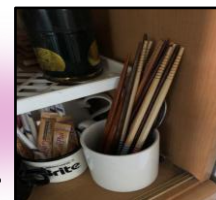
具体的計画	担当	取り組み結果	評価
適正な分別を行い、資源化へと繋げる	廃棄物排出削減部門	土木調査部：適正な分別を行っている。	○
		リサイクル事業部：適正な分別を行っている。	○
My箸・Myバック・Myタオル（ハンカチ）を義務化する My弁当箱・水筒持参の推奨	全社員	掲示物の張り出しや、マイバックを準備し利用できるようにしたが、義務化や全員の意識づけには至っていない。	×
ペットボトル・空き缶のリサイクル	全社員	調査部より発生したモノはリサイクル工場へ持ち込み再資源化している。	○
段ボール・新聞紙・その他紙をリサイクル	全社員	古紙リサイクル工場に持ち込み、再資源化している。	○
ミスプリントの裏紙使用 使用済みカレンダー・ポスター等を再利用し紙使用を削減	全社員	会社内資料は裏紙を使用し、カレンダー等の古紙はメモ帳として活用している。	○
ミスプリントの削減	全社員	提出資料を印刷前にデータで確認し、事前にミスで訂正し印刷する。また、kintoneを活用し、会議資料や回覧等の電子化を行い、ミスプリントの削減に繋げ、昨年度より紙の使用量が削減された。	○



古紙などはリサイクルへ



My箸・Myコップは  
会社に常備しています。



### 評価と分析（土木調査事業部）

一般廃棄物に関しては、目標値以下を達成し、過去3年間の中で、最も少ない排出量を達成しており、評価するに値する。次年度も排出量を削減し続けられるよう、意識付けを行う。

### 評価と分析（リサイクル事業部）

1人当たりの目標値は達成となった。来客用飲料のPETボトルをラベルレスボトルを購入しゴミ発生の抑制に努め、コーヒー、茶殻を花壇の土に混ぜてゴミの排出削減を継続している。  
My箸の徹底を継続し、また、弁当容器の廃棄が目立つので、繰り返し使える弁当箱使用を推奨する。

# 令和6年度 取り組み目標と結果

## グリーン商品 取り組み結果

※3年ごとで見直し

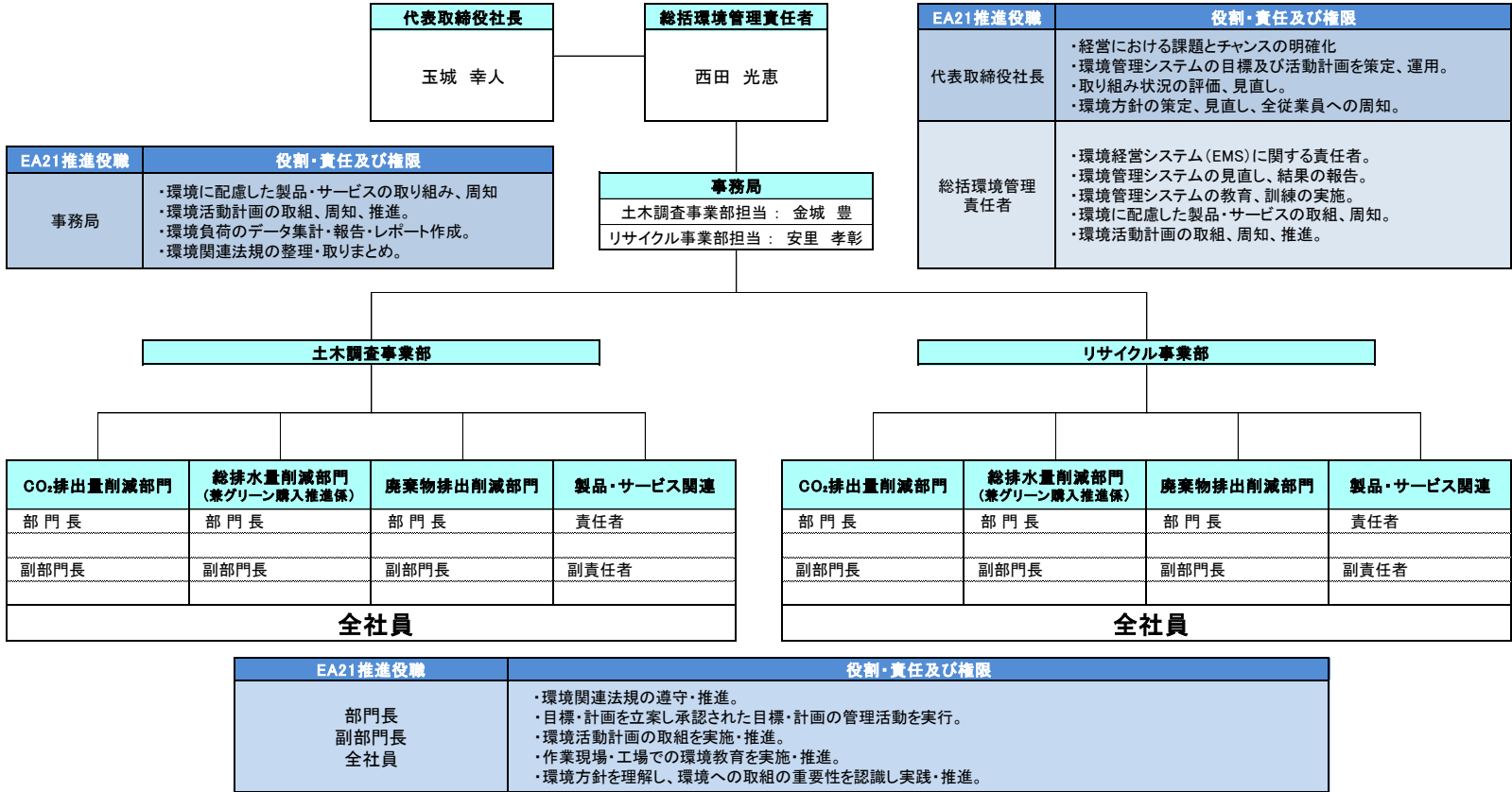


中期計画（グリーン購入）								
項目	年 度 単 位	基準値 基準年度	R4年度		R5年度		R6年度	
			目標	実績	目標	実績	目標	実績
土木調査事業部	定期購入 ・コピー用紙 ・制服	R3年度	継続	継続	継続	継続	継続	継続
リサイクル事業部	定期購入 ・コピー用紙 ・制服	R3年度	継続	継続	継続	継続	継続	継続

グリーン購入促進の取組			
具体的計画	担当	取り組み結果	評価
コピー用紙はグリーン商品（再生紙）を使用する	総務部	グリーン商品を使用している。	○
制服はグリーン商品の使用を検討する。	総務部	現場作業服は、グリーン商品を使用。	○

評価と分析	
土木調査事業部	コピー用紙に限らず、会社で使用するモノはグリーン商品を検討し購入する。 事務職の制服は、購入時にグリーン商品のモノを検討する。
リサイクル事業部	

**株式会社 沖縄計測  
エコアクション21 組織図**





# 環境コミュニケーション（OJT）

総会 【入社式】	土木調査事業部、リサイクル事業部、グループ会社全体 前年度の報告、新年度に向けての取組目標、エコアクション21で決めた目標取組の伝達。
役員会議	毎週月曜日 外部からの情報（市場変動・業界の方向性等）を共有し、対応策を審議する。社内における案件を審議し、必要に応じて社内へ配信する。
管理者会議	土木調査事業部 月2回（第2・4木曜日） 業務の工程、新規の案件、連絡事項、エコアクション21等状況確認と情報共有。 リサイクル事業部 月1回（第2水曜日） 稼働計画実施の確認、人員配置調整、連絡事項、エコアクション21等状況確認と情報共有。
工程会議	土木調査事業部 月1回（第1木曜日） 社長訓示、役員会議、管理者会議で決まった事案の伝達。情報の共有。 ビジネスマナー教育・安全衛生教育など。遠方へ出張中の社員はオンラインで参加するなど、できるだけ全社員が参加できるようにしている。
EA21・DX会議	土木調査部・リサイクル事業部（月2回） 取組状況の確認・報告・共有。毎月の工程会議で社員へ共有する情報の確認など
総務会議	土木調査事業部、リサイクル事業部、グループ会社総務部社員 月1回 年間行事の円滑な実施に向けて、計画・実施・反省の共有や「働きやすい職場環境」に対する問題点を抽出し改善案等を記録にまとめ、各部署管理 者会議にて共有し改善を図る。
朝礼	土木調査事業部（週1回）、リサイクル事業部（毎日）、リサイクル事業グループ会社全体朝礼（月1回） 社長から週の予定や社会情勢などについての連絡。また、司会、部長、各担当者からの連絡事項の周知。KY活動
昼礼	リサイクル事業部（月1回）昼礼及び安全衛生講習
全体社内清掃	土木調査事業部：毎週金曜日、リサイクル部：毎朝及び月1回 屋内・屋外・コンテナ周り等・前面道路を社員全員で清掃
安全パトロール	土木調査事業部 リサイクル事業部 安全講習を定期的実施。土木調査部 社内パトロール年3回・社外パトロール年3回実施
健康診断	土木調査事業部、リサイクル事業部、グループ会社全体 ・健康診断 毎年5月 ・騒音特殊健康診断 毎年11月（該当社員） ・インフルエンザ予防接種 毎年10～11月（費用会社負担）
毎月のテーマ	土木調査事業部、リサイクル事業部、グループ会社全体 担当部署の社員からテーマを募り意識向上に繋げている。
メンタル ヘルスケア	 <p>～健康経営～ 『野菜摂取週間』(8/27(土)～9/2(日)) アンケート結果報告</p> <p>自己管理とは？ 自己管理とは、自分の生活習慣や働き方を見直し、健康や安全を確保するための取り組みです。具体的には、食事のバランス、運動、睡眠、ストレス管理などが挙げられます。</p> <p>社員研修 ・スケジュール・自己管理 ・野菜摂取週間アンケート ・食生活改善のすすめ 社員の健康・QOL向上への取組み</p>



# 環境コミュニケーション (OFF-JT)

寄付金	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄東中学校女子ハンドボール部</li> <li>・沖縄市育英会</li> <li>・こどもの居場所支援事業</li> <li>・沖縄市</li> <li>・環境関連【西原町・与那原町・南風原町・比謝川行政】</li> </ul>   
社外交流会	土木調査部から3名参加   
安全衛生 協力活動 (ボランティア活動)	ボランティア清掃 ・5月 比謝川清掃ボランティア ・8月 西原町清掃ボランティア ・11月 沖縄市庁舎前清掃ボランティア ・11月 中城湾新港地区グリーン活動 ・12月 照間海岸清掃ボランティア ・2月 比屋根湿地・泡瀬海岸清掃 等  安全衛生協力活動 ・仲本工業安全衛生大会 ・若築建設安全大会 ・大米建設安全衛生大会 ・安全パトロール・親睦会への参加 
ポリテクセミナー	「センサ回路の設計技術」「3D CAD」について受講    
防災訓練	・沖縄市（土木調査事業部） うるま市（リサイクル事業部） の地域防災計画に基づき、 大規模地震・津波の発生を想定し 訓練を実施。 ・防災研修へ参加 （名護市防災訓練センター） <div> <b>R6.4.3 緊急津波警報が発令</b>            実際の避難を体験して浮上した問題点を改善するために、グループ毎に防災研修に参加（継続中）         </div>   

# 環境コミュニケーション（OFF-JT）



協賛広告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄建設新聞(おきなわSDGsパートナー)</li> <li>・沖縄市東部まつり</li> <li>・うるま市まつり</li> <li>・西原町まつり</li> <li>・沖縄市市制50周年記念大相撲沖縄場所</li> <li>・3R推進月間新聞</li> <li>・(株)丸松建設ハンドボールクラブ ほか</li> </ul> <div data-bbox="755 185 1029 268"> </div> <div data-bbox="1064 160 1402 370"> </div> <div data-bbox="1441 145 1702 364"> </div>
<ul style="list-style-type: none"> <li>* 沖縄市・うるま市 産業まつり出展</li> <li>* 沖縄県産業まつり出展</li> </ul>	<div data-bbox="479 437 784 647"> </div> <div data-bbox="803 437 1083 651"> </div> <div data-bbox="1112 446 1396 659"> </div> <div data-bbox="1431 440 1740 822"> </div>
<ul style="list-style-type: none"> <li>* インターンシップ受け入れ</li> <li>* 工場見学の受け入れ</li> <li>* サークュラーエコノミー講演会 登壇</li> </ul>	<div data-bbox="484 717 774 934"> </div> <div data-bbox="788 717 1074 934"> </div> <div data-bbox="1083 717 1425 934"> </div>
エコアクション21	<p>エコアクション21 オブザイヤー2024【ソーシャル部門】銅賞受賞 応募タイトル「設計から考えるサーキュラーエコノミーの取り組み」</p> <div data-bbox="1126 966 1277 1063"> </div>
顧客からの声 (クレーム等)	別紙参照



## カンボジア地雷対策センターへ訪問 (2024年6月)

玉城幸人社長より

沖縄に長官をはじめCMACの方々をお迎えすることができたこと、その際カンボジアへ招待されたことを心から感謝したい。訪問する機会が与えられ感激している。今後も交流を深めていくことを願っている。弊社の48年間の不発弾探査の歴史・経験を踏まえて技術交流によりCMACの活動に貢献できるように努力する。今後、日本(政府)のサポートを得て探査事業から【平和貢献】へと弊社の視点を新たにしたい。





## 講習会・勉強会



\* 測量勉強会



\* NPO法人 磁気探査講習会



\* LandForms勉強会



\* 企業型DCセミナー



## 環境教育及び安全衛生講習会

■ 4月：ライン作業の流れ

■ 4月：食育

■ 5月：熱中症対策

■ 7月：リサイクル法

■ 8月：エコドライブ

■ 9月：フォークリフト安全運転（挟まれ・巻き込まれについて）

■ 11月：避難訓練

■ 12月：騒音障害防止

■ 1月：KYT

■ 2月：受動喫煙

■ 3月：汚水漏れ防止





# DX推進・技術開発

## DX推進

### 中期経営ビジョンの明確化

#### DX計画書

DX推進チーム

#### チャレンジあるのみ

「省インフラ」を実現するビジネス展開

記憶に新しい出来事として、埼玉県八潮市で地中の下水道管が破損、それによって発生した泥水が道路で溢れ出し、そこへ車両が落下して運転していた男性が行方不明となった様子が記された。下水道管の破損のみならず、橋梁やインフラも、地震・台風・日本では稀な高層ビルからの落下物など、様々な要因で破損が相次ぎ、社会の安全と安心を脅かしている。

「作る」側の巨大インフラ設備を点検するのなら、点検や作り替えなどのインフラ設備に参入するべきであると考え、

「省インフラ」という言葉が適切ではないか、ビジネス展開の「地中の見える化」は種にかかわらず、今後の課題となる。



## アプリ開発促進



作業時間短縮に成功

カメラアプリ

アルバムアプリ

カメラアプリと連動

## 機器開発

### 下方安全確認 J-musセンサ開発



作業時間短縮に成功

成果品アプリ

進化します



## 泡瀬ヤード

### 駐車場コンテナの移動



かねてより、機材搬入や車の移動など騒音が気になっていました。近隣住民の皆さんに配慮しながら、広いスペースで安全に作業する事を考え、本社前の駐車場にあったコンテナを泡瀬ヤードへ移動しました。  
更に、泡瀬ヤードにはトイレを設置し、作業環境を整えました。

## 本社駐車場整備



自前で本社前の駐車場の整備と排水溝の整備・清掃を行いました。付近の排水溝も併せて清掃しました。かなり落ち葉が詰まっている状態でしたが、台風や津波など緊急時に排水溝が詰まる危険がないよう作業しました。

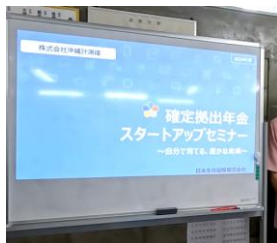
## R & D Center整備・活用



2025年2月  
JICA地雷担当者から連絡があり、弊社の磁気探査への取り組みについて話を聞かす、視察にお見えになりました。  
屋外実験場を見学し、日々の実験の様子などもご覧頂けました。



## 企業型DCの導入



社員に勉強会を2回実施し、企業型DC（企業型確定拠出年金）を導入。社員の老後資金の準備をサポート。

## 防災研修の実施



実際の避難時の経験を踏まえ、防災に対する意識づけを強化すべく、名護市防災研修センターでの「防災研修」を令和6年度から実施しています。

## 沖縄市より特別功労表彰



沖縄州市制施行50周年記念式典にて、「沖縄市の社会福祉の向上及び青少年の人材育成」に貢献したとして特別功労表彰を受けました。

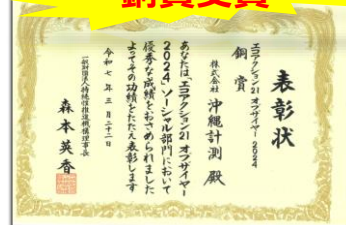
## AED設置



本社前にAEDを設置。外に設置する事で、緊急時に誰でも使用できるように配慮している。

## エコアクション21オブザイヤー2024

銅賞受賞





## リサイクル事業部に設備導入及び整備

### 脱水機 2 台更新



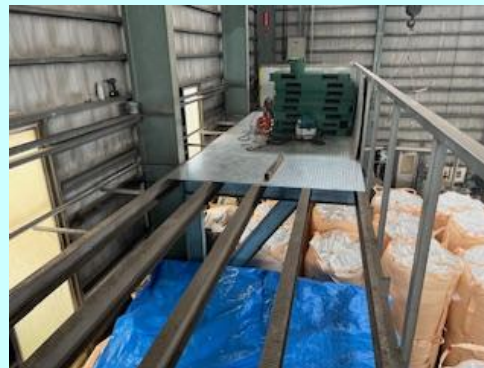
機器設置作業状況



機器設置完了状況

既存の機器と比較し、脱水洗浄が強化され、製品の品質向上に繋がりました。また、導入により作業効率UPにも繋がっています。

### 中 2 階床鉄板貼替え



老朽化による劣化した中2階の床鉄板の張替えを実施し、作業環境の改善を行いました。

### フォークリフトの更新



必要に応じた能力の車種を選定することで経費を削減し、更に作業効率UPとなった。

# 令和7年度 経営における課題とチャンス（環境への配慮）



## ● 土木調査事業部

課題		チャンス	
外部要因	内部要因	—	—
○		人手不足による長時間労働	労働環境条件の良さ
	○	離職者が多い	給与形態の見直し
	○	労働時間の偏り（力量不足）	企業型DC制度を含む福利厚生の実施による採用の優位性
	○	人材育成	業務の効率化（時間外労働削減）
			計画的な教育講習時間の確保
○		物価上昇による家計への負担	見積書適正価格の見直しによる利益率UP
	○	デジタルシフトを終えDXへの取組	賞金UP
	○		企業価値の向上
	○	デジタル機器（J-SOK）の普及	業務の効率化、OJT・OFF-JTの向上
	○	解析ソフト（サブスクリプション）の普及	自社開発機器を所有、さらに販売による標準化
	○		NETIS登録による普及加速化
	○	成果品のペーパーレス化	利益の確保（外部）
	○		業務の効率化（内部）
	○	J-SOK取扱技術力不足	若手技術者がいること及びソフト開発事業者との連携によるデジタル成果品作成ソフトの開発及び販売
	○	勤怠管理業務	社内有志者による勉強会の開催
	○		顧客満足度UP
	○	クレーム対応	クラウド勤怠の円滑な運用による業務効率化
	○		社員技術力向上、製品の品質向上による顧客からの信用度UP
	○	ヤードの活用	新ヤード活用による労働環境改善
	○	屋外実験場の有効活用	機器開発における実験によるエビデンスの確立
	○	経営資源の管理不足	管理者の経営に対する意識の向上
	○		業務管理クラウドソフトの有効活用
○	○	同業他社との競争激化	海外展開
			ドメインの拡張及び新規ドメインの開拓

## ● リサイクル事業部

課題		チャンス	
外部要因	内部要因	—	—
○		離職者が多い	労働環境条件の良さ
	○	労働時間の偏り	指導者（有資格者）の存在・教育時間確保のゆとり
	○	人材の育成（管理者育成）	福利厚生の実施による採用の優位性
	○		企業型DCの推進
	○	重労働な作業	業務の効率化（時間外労働削減）
	○		安定的な生産
○		物価上昇による家計への負担	社員の負担軽減
	○	勤怠管理業務	入札の適正価格の見直しによる利益率UP
	○	製品品質向上	賞金UP
	○		クラウド勤怠の円滑な運用
	○	クレーム対応	最新設備の保有
	○		安定的な製品販売、顧客満足
	○	情報収集不足	社員技術力向上、製品の品質向上による顧客からの信用度UP
	○	製品販売価格の変動	営業力強化、適正価格による利益率UP
	○	廃棄対象の原材料	高品質な製品づくりによる販売先の確保
	○	工場施設の整理整頓清掃	原材料増量（廃棄対象物の受け入れ）
	○	生産管理業務	整理整頓清掃による安全及び業務効率化
	○		生産管理データ入力効率化

# ▼ 次年度（令和7年度）環境経営目標及び環境経営計画 （土木調査事業部）

## 環境経営目標



◇ CO<sub>2</sub>・水・廃棄物排出量の削減 ◇ 経営力向上・組織の活性化 ◇ スキルアップ及び人材育成 ◇ 健康経営の推進

## 環境経営計画

### ◇ 経営力向上・組織の活性化

品質・環境目標
DXの推進、DX認定取得
公共工事の受注 ・磁気探査業務 ・測量業務 ・地質調査業務 ・設計業務
民間発注の設計業務
強磁性体近傍業務の受注
J-SOKの販売
新技術の開発（ものづくり補助金の活用）
解析ソフト（サブスクリプション）契約
NETIS登録：2件（海上・JSD）
海外展開の推進
新技術開発
屋外実験場（R&Dセンター）の活用
ヤードの活用

### ◇ スキルアップ及び人材確保（業務効率化による時間外労働の削減）

品質・環境目標
スキルアップ ・資格取得に関する勉強会の実施 ・個別目標管理表計画に基づく教育 ・管理者の経営に対する意識の向上
人材確保【現場3名】
3次元業務 技術者育成（属人化の解消）

### ◇ 健康経営の推進（時短によるCO<sub>2</sub>排出量の削減）

品質・環境目標
時間外労働の削減：15H／月（労働時間の平準化） Kintone（日報アプリ）で土木事業部社員のスケジュールを管理。 情報発信計画として位置付ける。
年次有給休暇の徹底（付与分の50%以上）
二次健康診断の受診率（100%）

◇ CO<sub>2</sub>・水・廃棄物排出量の削減 ※数値目標はp42に記載

# 令和7年度 環境経営目標及び環境経営計画



## 環境経営目標

### ● リサイクル事業部

- ◇ CO<sub>2</sub>・水・廃棄物排出量の削減
- ◇ 経営力向上・組織の活性化
- ◇ 人材育成
- ◇ 健康経営の推進

## 環境経営計画

### ◇CO<sub>2</sub>・水・廃棄物排出量の削減

目標数値は p 44に記載

### ◇経営力向上・組織の活性化

#### 安定生産（ハード面）[設備更新、製品品質向上など]

機器不具合箇所の洗い出し→改善

解体機及び投入コンベアの更新（前年より持ち越し）

投入ホッパースクリューの更新

中二階床の保全

工場施設の整理整頓清掃

#### 安定生産（ソフト面）[業務の効率化]

取引先への啓発活動の強化（製品品質向上）

入荷量の安定確保（枯渇資源の使用量削減によるCO<sub>2</sub>削減）

稼働月報管理の効率化

作業手順書の活用及びメンテナンス記録の見直し

### ◇人材育成

工場管理者の育成及び生産管理教育の強化  
（個別力量に応じた教育）

リサイクル関連業務知識の習得

総務・経理業務習得の強化

### ◇健康経営の推進

時間外労働の削減(6H／月)

年次有給休暇取得の徹底(付与分の50%以上)

二次健康診断の受診率（100%）

# ▼ 次年度（令和7年度）環境経営目標及び環境経営計画



## CO<sub>2</sub>・水・廃棄物排出量の削減（土木調査事業部・リサイクル事業部共通）

・中期目標（CO <sub>2</sub> 排出量）					
項目	単位	年度 基準年度	R7年度 目標値	R8年度 目標値	R9年度 目標値
土木調査事業部	Kg-CO <sub>2</sub>	58,582 (R6年度目標値)	57,996	57,416	56,842
リサイクル事業部	Kg-CO <sub>2</sub> (処理量 当り)	113.0 (R6年度目標値)	112.5	112.0	111.5

・中期目標（水使用量）					
項目	単位	年度 基準年度	R7年度 目標値	R8年度 目標値	R9年度 目標値
土木調査事業部	m <sup>3</sup>	150 (R6年度目標値)	149	148	147
リサイクル事業部	m <sup>3</sup> /t (処理量 当り)	4.51 (R6年度目標値)	4.51	4.51	4.51

・中期目標（産業廃棄物）					
項目	単位	年度 基準年度	R7年度 目標値	R8年度 目標値	R9年度 目標値
土木調査事業部	Kg	2,474 (R6年度目標値)	2,449	2,425	2,401
リサイクル事業部	Kg/t (処理量 当り)	12.22 (R6年度目標値)	12.20	12.18	12.16

・中期目標（一般廃棄物）					
項目	単位	年度 基準年度	R7年度 目標値	R8年度 目標値	R9年度 目標値
土木調査事業部	Kg (一人当 たり)	59 (R6年度目標値)	58	58	57
リサイクル事業部	Kg/t (一人当 り)	23.8 (R6年度目標値)	23.7	23.6	23.5



# ▼ 次年度（令和7年度）環境経営目標及び環境経営計画



## CO<sub>2</sub>排出量

二酸化炭素排出量削減の取り組み	
具体的計画	担当
エアコンの設定温度、不要照明消灯の意識付け	全社員
太陽光パネルの活用	土木調査事業部
生産管理方法の工夫により使用電力量を抑える	リサイクル事業部
エコドライブの推進（継続）	全社員
定期的なタイヤの空気圧点検（kintone管理）	車両管理責任者
低燃費車両の導入	車両管理責任者
出発前の使用道具確認の徹底（機器類：2日前までの動作確認）	土木調査事業部
使用車両の台数管理（kintone管理）	全社員
使用機器等の定期点検・管理	土木調査事業部・リサイクル事業部
磁気探査システム（デジタル化）による業務の効率化	土木調査事業部

## 水資源使用量

水資源使用量削減の取り組み	
具体的計画	担当
雨水タンクを活用し草木の水やりに継続して使用する（上水道は使用せず100%雨水を使用）	リサイクル事業部
循環水を活用する	リサイクル事業部
ホースの出口に手元操作ノズルを取り付け、こまめに止め節水を図る。	排水量削減部門
廃プラ工場（洗浄機等）の投入水量の管理の強化	リサイクル事業部

# ▼ 次年度（令和7年度）環境経営目標及び環境経営計画



## 廃棄物（産業）

産業廃棄物の削減の取り組み		
	具体的計画	担当
	適正な分別を行い、資源化へと繋げる	廃棄物排出削減部門
	ペール品検査による品質検査とごみ混入防止の啓発活動	全社員
	空き缶・鉄類のリサイクル	全社員
	汚泥を乾燥させ、廃棄物を減量する	リサイクル事業部
	廃ラベルを燃料資源として再利用する	リサイクル事業部
	作動油の適正管理	廃棄物排出削減部門

## 廃棄物（一般）

一般廃棄物の削減の取り組み		
	具体的計画	担当
	適正な分別を行い、資源化へと繋げる	廃棄物排出削減部門
	会社デスクにMy箸を用意し、使用を推奨する。Myバック・Myタオル（ハンカチ）の携帯・使用を推奨する。	全社員
	ペットボトル・空き缶のリサイクル	全社員
	段ボール・新聞紙・その他紙をリサイクル	全社員
	ミสปrintの裏紙使用、使用済みカレンダー・ポスター等を再利用し紙使用を削減	全社員
	ミสปrintの削減	全社員

## グリーン購入

グリーン購入促進の取り組み		
	具体的計画	担当
	コピー用紙のグリーン商品（再生紙）使用及び文具等の買い替えはグリーン商品を優先する	総務部
	制服はグリーン商品を検討する	全社員

# 環境関連法規及び遵守状況



	法規制法の名称	要求事項	測定回数等	摘要拠点	評価		法規制法の名称	要求事項	測定回数等	摘要拠点	評価
① 環境一般	環境基本法	環境保全に係る事業者の責務		全拠点	○		沖縄県赤土等流出防止条例	規制基準の遵守・作業の届出通知		土木調査	○
	循環型社会形成推進基本法	環境保全に係る事業者の責務		全拠点	○		フロン排出抑制法	フロンガスの漏えい防止（設備の維持管理）		全拠点	○
	環境教育推進法	環境保全活動・環境教育の実施		全拠点	○		海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律（海洋汚染防止法）	海洋汚染や海洋災害を防止し、海洋環境を保全すること		土木調査	○
	地球温暖化対策推進法	地球温暖化を防止する枠組みを定める。		全拠点	○						
	資源有効利用推進法	3Rの推進		全拠点	○						
	プラスチック資源循環法	プラスチック使用製品産業廃棄物等の排出の抑制		全拠点	○						
② 環境保全関連	下水道法 沖縄県生活環境保全条例 うるま市下水道条例	排水水の測定 (濃度計量証明書：処理前取水口・最終排出口)	1回/年	リサイクル	○	③ 防災関連	労働安全衛生法	フォークリフト特定自主検査 フォークリフト運転資格者	1回/年 (2台)	リサイクル	○
	騒音規制法 沖縄県生活環境保全条例 うるま市公害防止条例	特定施設の設置・変更の届出		リサイクル	○			床上操作式クレーン特定自主検査 床上操作式クレーン運転技能	1回/2年 (2台)	リサイクル	○
	振動規制法 うるま市公害防止条例	特定施設の設置・変更の届出		リサイクル	○			作業環境測定：騒音障害防止	2回/年	リサイクル	○
		産業廃棄物処理施設設置届（沖縄県）		リサイクル	○		計量法	トラックスケール定期点検 台秤（電気抵抗線式秤）点検	1回/2年	リサイクル	○
		産業廃棄物処理業[処分業]の許可（沖縄県）	5年更新	リサイクル	○		消防法 うるま市火災予防条例	消防各施設の作動概観、機器、総合点検等 消防設備（総合）点検結果の消防署へ提出	各1回/年 1回/年	リサイクル	○
		産業廃棄物収集運搬業許可（沖縄県）	5年更新	リサイクル	○			指定可燃物貯蔵届出・保管表示		リサイクル	○
		一般廃棄物処分業許可（うるま市）	2年更新	リサイクル	○	④ リサイクル	容器包装リサイクル法	容器包装に係る分別収集及び再商品化の推進（事業者登録）	1回/年	リサイクル	○
		一般廃棄物収集運搬業許可（うるま市）	2年更新	リサイクル	○		家電リサイクル法	①適正な引き渡し （電気店・自治体・指定引き取り場所） ②収集・運搬、再商品化等にかかる費用の支払い		全拠点	○
	廃棄物処理及び清掃に関する法律	技術管理者の選任 (破碎・リサイクル施設技術管理士)		リサイクル	○		グリーン購入法	物品を購入等の際、環境の配慮した製品の購入		全拠点	○
	うるま市廃棄物の減量化推進及び適正処理に関する条例	廃棄物保管基準の遵守		全拠点	○						
		・産廃物処理業者との委託契約の締結（収運・処分） ・許可証の確認 ・委託契約書の5年間保管（契約終了後）		全拠点	○						
		マニフェスト伝票の運用 ・マニフェストの交付及び保管（5年間） ・マニフェスト伝票交付状況の報告	毎年度6月末迄	全拠点	○						

2025年4月1日 環境関連法規への違反はありません。訴訟等ありません。

## 代表者による全体の取組状況の評価と見直し・指示の結果

令和6年度における当社事業の業況は次のとおりであった。土木調査事業部の業界の状況は公共工事の発注が例年に比べ減少傾向であるなか、磁気探査の民間支援業務の受注件数が目標を上回る結果となり業績に貢献した。また、その民間支援業務の大幅な仕様変更内容は、現場及び報告書作成に多大な労力を要する内容であったが当社にとって新たな機器及びソフト開発のきっかけとなり、開発した機器等を活用することにより受注への優位性が高まった。リサイクル事業においては、昨年度に引き続きPETボトルの再生品用途は、シートや繊維よりもBtoB（PETボトルからPETボトルへの再生）への高度化リサイクルの割合が大幅に上昇した。そういった中、当社では脱水機2台を脱水洗浄効果の高い機器へ更新を実施したことで、製品品質に高評価を得られ製品販売への優位性に加え再生品の品質向上による環境配慮へと繋がった。

CO<sub>2</sub>排出削減については、両事業部共に目標達成となっているが、照明器具や冷房設備の節電配慮に欠ける状況があるため朝礼等にて注意喚起の指示を通知している。

水使用量において両事業部共に目標を達成しており、特にリサイクル事業部においては脱水機2台の更新により給排水配管の改修を実施し製品品質を高めるための水量を確保をしつつ節水に繋がる工夫を実施したことは評価に値する。

産業廃棄物に関し両事業部共に目標を達成しており、リサイクル事業部における汚泥の天日干し及びPETボトルの受け入れ先への異物除去の啓発活動の継続を指示した。また、一般廃棄物に関し両事業部共に目標を達成したが、飲食に関する使い捨て容器使用の課題解決が進んでおらず次年度における対策を望む。

健康経営について時間外労働の削減及び年休取得の目標値に対し未達となったが、会計勤怠のクラウド化やkintoneの活用により効率化が進み、以前より休暇を取得し余暇を楽しむ様子が見受けられワークライフバランスを意識した社員が増えてきた。別途、今年度はパパ育休の対象者が3名いるなか3名とも当社初のパパ育休を取得することができ喜ばしい限りである。また、健康診断の二次検診は昨年度に引き続き100%を達成した事は良いが、二次検査の対象とならないよう健康管理の強化に力を入れる。

今年度は実施体制の見直しとして、各部署の連携を強化するよう指示し環境管理責任者の変更を実施し体制の改善を図った。

次年度の目標として土木調査事業部は前年度からの継続案件であるDX推進の磁気探査ソフト開発の完成を目指し、技術面における『沖縄という小さな島から世界へ発信するという夢の実現』へ継続的に取り組む。また、リサイクル事業部においては老朽化した機器の更新に際し作業効率に考慮した設計を自社にて考案し、生産効率を高めることでCO<sub>2</sub>排出の削減に繋げる。

今後もESG及びSDGsを念頭におき、人材育成の強化及び適性配置による各部署の組織力の強化を図り、全社員一丸によるエコアクション21の環境経営活動をととして、地域社会や顧客との信頼関係を深め、高付加価値な製品・サービスの提供によるサーキュラーエコノミーの構築に努める。